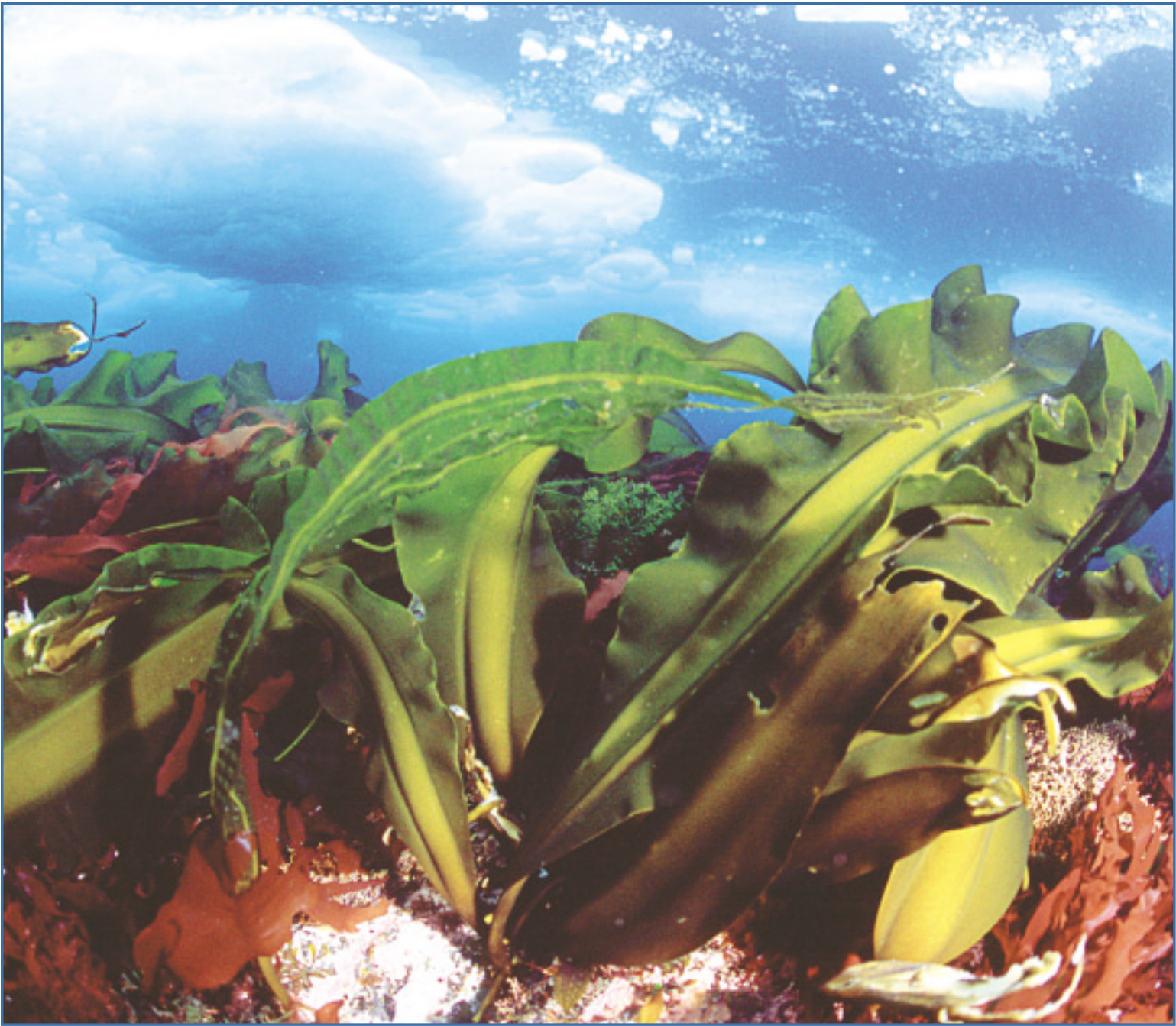


PHOTO REPORT



知床・命のゆりかご

「自然写真家からのメッセージ」

写真・文

関勝則

海



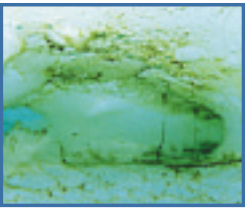
せき かつのり
写真家。1954年釧路市生まれ。89年羅臼町に移住し、知床ダイビング企画を設立。水中ガイド、水産資源調査に携わるかたわら、知床の海の生き物たちを撮影している。近年は知床の環境保護を目的とした講演活動なども行っている。主な著書に写真集「オホーツクおしゃべり仲間」（京都書院）、「いのちの海知床」（北海道新聞社）などがある。

海藻の森は、流水の下で大きくなる

後世に残したい北海道の自然（うみ）は大きく分けて2つある。流水の風景と海藻（コンブ）の繁茂する海である。2005年7月、知床がユネスコ世界自然遺産に登録された。山・川・海のかかわりはもちろんだが、流水が接岸する北半球の南限であることも大きな要因となった。日々変わる流水の造形は爽快で美しく創作意欲をかき立てる。流水と何か絡めて撮影を行いたいのだが、流水下では動き回る魚が極端に少ない。水温がマイナスになると、あまりの冷たさに多くの魚たちは動けず、岩の隙間の奥で仮眠状態になるからだ。水中から見上げる水面は、まばらに浮かぶ流水が夏の青空に浮かぶ雲のような。若葉を思わせるあめ色のコンブが気持ち良さそうに揺れている。この極寒の時期に成長期を迎えるコンブは日に1センチ以上成長する。魚たちが寝ている間に、命のゆりかごとなる海藻の森が健全に育つ。眩（まばゆ）いもえぎ色のコンブに覆われた海底は寒さと時間を忘れる美しい風景だ。

流水とアイスアルジが伝える危機

25年以上毎年流水下を潜ってきて感じるのは、流水が柔らかくなったこと。また流水下のアイスアルジに変化を感じる。1月下旬先駆けの流水はブルーに輝いている。3月下旬溶け始める頃、アイスアルジによって流水はグリーンに色付き、やがて茶色に変色する。しかしここ数年、先駆けの流水下ですでに藻状に成長したアイスアルジが見られる。わずかな水温上昇がプランクトンの増殖を早めているのだ。同時に、流水の溶け始める速度が速まっている。流水が減るとアイスアルジなどの生物や気候に与える影響は計り知れない。地球温暖化を防ぐため、日ごろ省エネルギーを心掛けることが海を護（まも）ることにつながる。また人々の環境に対する関心が一過性でないことを祈る。



成長のスピードが早まっているアイスアルジ。小さなプランクトンが、地球の異変を伝えている。

